

第4学年3組 体育科学習指導案

令和元年 11月 26日 (火曜日)

第4学年3組(男子12名、女子16名)

指導者 T1 福田 哲也

T2 蛭原 理子

1 単元名 体づくり運動 (多様な動きをつくる運動)

2 単元の目標

- (1) 体づくり運動の楽しさや喜びに触れ、運動の行い方を知るとともに、体を動かす心地よさを味わったり、基本的な動きを身に付けたりすることができるようにする。
 - ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体の変化に気付いたり、みんなで関わり合ったりすること。
 - イ 多様な動きをつくる運動では、体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをし、それらを組み合わせること。(知識及び運動)
- (2) 自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

3 運動の一般的特性

中学年の体づくり運動は、「体ほぐしの運動」及び「多様な動きを作る運動」で構成され、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、低学年で学習した様々な基本的な体の動きに加えて、多様な動きを身に付けたり、動きの質を高めたりする運動である。

中学年では、低学年での体づくり運動遊びの学習を踏まえ、手軽な運動を行うことを通して、自己の心と体の状態に気付いたり、みんなで関わり合ったりするとともに、多様な動きをつくる運動の行い方を知り、体のバランス、体の移動、用具の操作、力試しの動き及びそれらを組み合わせた動きを身に付け、様々な基本的な体の動きの幅を更に広げていくとともに、動きの質を高め、高学年の体づくり運動の学習につなげることが求められる。

4 児童の実態

(1) 運動に触れる楽しさの体験状況

本学級(男子12名、女子16名、計28名)は、明るく元気な児童が多い。多数の児童が、昼休みに外でサッカーや鬼ごっこをして遊んでいるが、屋内で過ごしている児童もあり、運動への関心には個人差があるとともに、男女間の運動経験の差も大きい。

(2) 「知識及び運動」、「思考力、判断力、表現力等」、「学に向かう力、人間性等」の習得状況

これまでの学習を通して「知識及び運動」に関しては、「西小パワーアップ運動」をもとに、集団行動の行い方や、立腰指導などを通して、体育科学習を進めていく上で重要な心構えを意識して行動するようにしている。

また「思考力、判断力、表現力等」に関しては、学習の中で動作や人数などの条件を変えて、友達と関わり合いながら運動を行ってきた。

そして「学に向かう力、人間性等」に関しては、どの分野においても、友達の動きのよさにも注目して、動きのコツをつかむように運動を行ってきた。

(3) 体力の状況

段階	A	B	C	D	E
男子(人数)	5	1	2	4	0
女子(人数)	6	5	3	1	1
合計	11	6	5	5	1

体力テストの結果は、A段階が11名で約4割と一番多いものの、B段階6名、C・D段階が各5名、E段階1名であり、体力に差が大きい。そのため、様々な動きを身に付けることができた児童を称賛する場面を多くすることで、互いの動きのよさに気付かせながら意欲的に活動に取り組めるように工夫する必要がある。また、単元を通して楽しみながら体を移動する運動を行うことで、児童の体力向上を図っていく。

5 学習を進めるに当たって

本単元では、1学期に行っていない多様な動きをつくる運動の「体を移動する運動」「用具を操作する運動」を中心に指導を行う。単元を前半・後半に分け、基本的な動きを身に付けるための「めあて1」、動きを組み合わせる「めあて2」の時間を設定する。単元を通して、児童が様々な運動に取り組む中で、友達のよい動きに気付く機会を多くもたせたい。また、それらの気づきを生かして自身の運動へ取り入れられるように指導していきたい。そのため、毎時間「運動のポイント」を示しながら学習を進めたい。1つの動きでも、児童によってどんな感覚で行っているかは違いがある。児童の言葉から、「動きのポイント」を学級全体で共有しながら授業を進めたい。

オリエンテーションでは、本単元でどのような運動に取り組んでいくのかを確認することで、ゴールイメージをもたせたい。また、1単位時間の流れや学習カードの使い方を児童につかませたい。「ねらい1」では、易しい動きから難しい動きまで様々な動きを経験させ、楽しみながら自分の動きの高まりを実感させるようにしていきたい。また、「動きのポイント」を学級全体で共有する場を設け、児童の意欲を高めるとともに、動きが高まるようにしたい。

「ねらい2」では、「ねらい1」で学習した動きを組み合わせた運動を行ったり、教師から提示された課題を、グループごとに話し合いながら協力して解決したりする活動を行う。また、運動をすることの楽しさを味わわせるために、運動に苦手意識をもつ児童に対しては、ルールや場の設定を変えたり、長なわの保持具などの教材や教具を工夫したりして運動できるようにしたい。

そこで本時の授業においては、「はじめ」の段階では、グループでストレッチを行った後に本時のめあての確認を行い、本時の学習内容についての共通理解を図りたい。「なか」の段階は、前半と後半に分けて指導する。前半では、本時までで行ってきた運動をワークシートから選択し、長なわと組み合わせる運動を行う。様々な運動を行う中で「動きのポイント」を活かし、自分の力にあった課題に挑戦する機会を得ることができるよう、1つの運動例を難しさに応じて段階的に例示して、児童が運動に取り組みやすくしたい。

後半では、教師から全体に共通の課題として、長なわを跳びながら順番を入れ変わることを提示する。運動を進めていく中で、「動きのポイント」を考えさせるような発問を行い、どのようにしたらよりよい動きができるのかを話し合っていく時間を設定したい。「まとめ」の段階では、ワークシートに記入する際には、どのような動きをしたら課題ができたかや、友達からのアドバイスを生かすように視点を与え、その言葉を記述するなど、自分の考えを伝える方法を助言したい。

6 単元の評価規準 (●第4学年 ・第3学年 ◎第3・4学年共通)

	知識及び運動	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
単元の評価規準	◎ 体ほぐしの運動や多様な動きをつくる運動の行い方を知るとともに、多様な動きをつくる運動では、体のバランスや移動、用具の操作、力試しの動きとともに、それらを組み合わせた動きができる。	◎ 体ほぐしの運動では、友達と一緒に運動をしたり用具を使って運動をしたりするなど、運動の行い方を選んでいく。 ◎ 多様な動きをつくる運動では、友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れたい、動きの組み合わせ方を選んだりしている。	・ 体づくり運動に進んで取り組もうとしている。 ● 用具の使い方や運動の行い方の決まりを守り、友達と励まし合って運動をしようとしている。 ◎ 友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。 ◎ 運動する場や用具の使い方などの安全を確かめている。
学習活動に即した評価規準	① 体ほぐしの運動や多様な動きをつくる運動の行い方を知るとともに、多様な動きをつくる運動では、体のバランスや移動、用具の操作、力試しの動きとともに、それらを組み合わせた動きができる。	① 体ほぐしの運動では、友達と一緒に運動をしたり用具を使って運動をしたりするなど、運動の行い方を選んでいく。 ② 多様な動きをつくる運動では、友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れたい、動きの組み合わせ方を選んだりしている。	① 用具の使い方や運動の行い方の決まりを守り、友達と励まし合って運動をしようとしている。 ② 友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。 ③ 運動する場や用具の使い方などの安全を確かめている。

8 本時の学習（5／6時間）

(1) 本時の目標

友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れることができるようにする。

(思考力・判断力・表現力等)

(2) 本時の評価項目

友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れることができる。

(思考・判断・表現)

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	○：評価項目 (評価方法) 【Aの例】	「努力を要する」と判断される児童への手立て
はじめ (10分)	<p>1 グループでストレッチを行う。(準備運動) (具体例) 屈伸、アキレス腱など</p> <p>2 本時のめあてと学習の流れを確認する。 ・前時までの振り返り</p>	<p>・主運動への感覚づくりや体の調子を整えることができるように、主運動につながる準備運動やの時間を設定する。</p> <p>・本時のめあてを確認し、学習の流れの見通しをもてるようにする。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 運動のポイントに気を付けて、友達のよい動きをみつけよう。 </div>				
なか (25分)	<p>3 基本的な動きを組み合わせる運動を行う。 ・長なわと組み合わせた運動 (例) ①ボールキャッチ ②複数とび ③短なわ ④フープ</p> <p>4 教師が提示した課題に取り組む。 ・長なわを跳びながら並び変え</p>	<p>・長なわを跳ぶタイミングだけでなく、道具の扱い方や友達との協力も大切であることに気付けるように助言する。</p> <p>・児童に運動に対する声かけを多くすることで、児童が運動に進んで取り組むことができるようにする。</p> <p>・跳び方のポイントを考えながら運動できるよう発問したり、意見交換したりする場を設定する。</p> <p>・お互いに動きを見合い、よい動きになるように話し合いながら学習を進めるよう指示する。</p> <p>・動きが高まらない児童は、友達のよい動きを見付けたり条件を変えたりするよう助言する。</p>	<p>○ 友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れたい、動きの組み合わせ方を選んだりすることができるようにする。 (思・判・表) 【Aの例】 友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れようとしている。 (観察・ワークシート)</p>	<p>棒にひもをつけた道具を使って運動を行いゆっくりした動きの中でも運動ができるようにする。</p>
まとめる (10分)	<p>5 片付けを行う。</p> <p>6 本時の学習の振り返りを行う。</p>	<p>・素早く片付けができるように声かけを行う。</p> <p>・友達のよかったところや自分の運動に取り入れたことを発表することで、学級全体で「運動のポイント」を確認できるようにする。</p>		

